

家族みんなで読んでね。

2020
2019年度
冬

白馬村 COOL CHOICE 新聞

白馬村キャラクター
ヴィクトワール・シュヴァルブラン・村男III世

地球のために、できること。

「白馬 EV シェアリング」が大好評！
白馬村で充電すれば地球に優しく走れます。

この写真は、2019年12月16日の白馬村、白馬ジャンプ競技場の風景です。気象庁の平年値ではこの頃すでに役場のあたりで積雪5cmほどはあるはずですが、白馬村でも「雪のない12月」が増えています。「気候変動」と「地球温暖化」の加速は、今、世界の大きな課題です。白馬村では『気候非常事態宣言』を出しました。白馬のパウダースノーを守り、四季の恵みを次世代に受け継ぐための宣言です。

昨年に続いて実施した2019年度『白馬 EV シェアリング』は大成功。村内の電気はほぼ100%再生エネルギーで自給できている（※）ので、白馬村で充電した電気自動車は地球に優しく走れます。こうした取り組みは、ひとりひとりが気候変動から白馬の美しい自然を守る活動について考え、アクションを起こすための大きなヒントでもあります。

（※）認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所『永続地帯 2018 年度版報告書』データより。

2020年1月20日

【発行】白馬村／白馬 EV クラブ

【制作】一般社団法人日本 EV クラブ

知っておきたい！

なぜ、白馬村が『気候非常事態宣言』を出したの？

2019年12月4日、
白馬村は『気候非常事態宣言』を出しました。

2019年12月4日、白馬村議会の冒頭あいさつで、下川正剛村長が『白馬村気候非常事態宣言』を表明しました。気候非常事態宣言とは、国や地方自治体などが気候変動の危機を認識して、具体的な政策やアクションにつなげていくとする意思表示です。欧米を中心に多くの国や自治体が発言を出していますが、日本国内では長崎県壱岐市などに続く先進的な「宣言」となりました。

「温暖化で雪が降らなくなったら白馬は大変なことになる。行政でもさまざまな取り組みを工夫していきますが、気候変動の危機を村民全体で共有して、行動を起こしていただければと思います。気候変動は白馬村一村だけで解決できる問題ではないですが、こうした宣言をきっかけに、行動の輪が広がってほしいと思っています」（下川正剛村長）

白馬村の宣言直後、長野県も気候非常事態宣言を出しました。



気候非常事態宣言を表明した下川正剛村長。村民の将来に、持続可能な自然環境と社会を引き継いでいくことが明記されています。



村長に宣言を求める署名を届けた白馬高校国際観光科2年生の3人。左から、宮坂雛乃さん、金子菜緒さん、手塚慧介さん。

気候変動を防ぐために行動しよう。
白馬村では白馬高校生が大活躍。

白馬村の宣言と合わせて、白馬高校生の活躍が話題になりました。白馬高校国際観光科2年生の3人が、9月20日に白馬駅と役場の間を行進する『グローバル気候マーチ』を計画。約120名が参加しました。11月30日にも気候難民のためのチャリティーバザー『白馬×Action=Haction』を開催し、2回にわたり村が気候非常事態宣言を出すことを求める署名を村長に届けたのです。

3人が気候変動の問題に関心をもったのは『Hakuba SDGs Lab』という白馬村で実施されている勉強会に参加したのがきっかけでした。「白馬村には気候変動に対する意識が高い人が多いから活動しやすい。大人の方の協力があってこそできたことだと思います」（3人の言葉）というように、同じ思いを抱く人々とSNSなどでコミュニケーションを広げることが、行動の実現に結びつきました。環境問題に興味のない人にも届くよう『楽しそう』と感じられる活動を続けたい。たとえば冬には「スキー場でマーチを！」といったアイデアも。3人の活躍は、ますます広がっていきそうです。

白馬村気候非常事態宣言（抜粋）

- ①「気候非常事態宣言」により、村民ともに白馬村から積極的に気候変動の危機に向き合い、他自治体の取り組む模範となります。
- ② 2050年における再生可能エネルギー自給率100%を目指します。
- ③ 森林の適正な管理による温室効果ガスの排出抑制に取り組むこと等により、良質な自然循環を守ります。
- ④ 四季を肌で感じる事ができるライフサイクルや、四季を通じたアクティビティの価値観を、村民一人ひとりが大切にします。
- ⑤ 世界水準のスノーリゾートを目指すために、白馬の良質な「パウダースノー」を守ります。

「白馬 EV シェアリング」で電気自動車の魅力を実感！

兵庫県まで帰省のロングドライブを体験。
ゲーム感覚で楽しく走ることができました。



『SUNNY SIDE HUT』オーナー
原 絵梨香 さん

白馬村に移住して 11 年が過ぎました。白馬五竜の宿泊施設を家族で経営しています。今回、兵庫県へ家族 5 人で帰省する機会に、EV シェアリングを利用しました。電気自動車は家族揃って初体験。往復で 10 回ほどの急速充電も体験しました。

EV のことをほとんど何も知らないまま出発。最初のサービスエリアの急速充電器に先客がいて充電を始めたばかりだったので、次の充電器を目指して再び走り始めたのですが、次の SA まで 30km ほどのところで航続距離の表示が 25km になってドキドキ。幸い、そこからは下り坂が続いたので無事に到着することができてホッとしました。EV でのロングドライブでは、余裕をもって充電したほうがよいことを実感することができました（笑）。EV の運転は一回の充電でできるだけ長く走れるように無駄なアクセルを踏まないの、自然と安全運転になりますね。充電を含めてゲーム感覚で楽しめました。

我が家には 6 人乗りのマイカーが 1 台だけ。自分のクルマを EV にするなら、ファミリーカーとして使える車種があるといいと思います。

うちの宿にはまだ電気自動車の充電コンセントを付けていないのですが、村の補助金を活用して設置したいと思っています。

白馬での普段の生活で使ってみました。
お店でも地産地消などを実践しています。



『Conexion Asia Pacifico』CEO
ホセ・トレス さん

コロンビア出身で、2014 年に日本に来ました。白馬には 2015 年の冬にアルバイトに来て今の奥さんと知り合って、翌年、移住して結婚しました。

白馬で開催されている EV ラリーや試乗会のポスターをお店に掲示していましたが、自分で乗ってみたのは初めてです。とても運転しやすくてパワフルだったので驚きました。

今回は遠出するのではなく、白馬村での普段の生活で使ってみました。日常的な移動では、航続距離を不安に感じることはなかったですね。また機会があれば、金沢や日本海へのドライブを楽しみたいと思います。

道の駅や役場での急速充電も体験してみました。今回は充電カードが無料で使えて便利でしたが、充電器の表示に従ってスマホで認証する方法はちょっとわかりにくかったかな。もう少し手頃な価格で使いやすい車種が出たら、マイカーを EV にすることも考えてみたいです。

私たちの会社では、地産地消を実践するなど、カーボンエミッションを減らすための取り組みにも力を入れています。私はスノーボードが大好きなので、白馬の雪を守るためにも、自分たちにできることをしっかりと考えて、少しずつでも実践していきたいですね。

稼働率は約 92%。『EV シェアリング』が大好評でした。



白馬ジャンプ競技場で行われた『白馬 EV シェアリング』の開始式にて、下川正剛村長と『ヴィクトワール・シュヴァールブラン・村男Ⅲ世』。



9月16日には白馬グリーンスポーツの森駐車で『親子で楽しむ EV 展示&試乗会』も開催。たくさんの方に参加していただきました。

人にも環境にも優しい。EV の気持ちよさは、
自分で乗ってみるとわかります！

白馬村では昨年に引き続き、2019 年度も環境省「クールチョイス」事業の一環として『EV シェアリング』を実施しました。フォルクスワーゲン e-Golf を 2 台用意して、8 月 2 日から 11 月 29 日までの期間で、ひとりにつき貸出日を 4 ～ 5 日間と決めて受付。稼働率は約 92% と大好評でした。四国や関西方面などへのロングドライブを楽しんだ方も多く、遠出した先での急速充電や電気自動車の乗り心地をたっぷりと体感していただきました。EV 体験後のアンケートによると、「運転していてすごく気持ちよかった」「加速がいいのに静かで素晴らしい」「電気自動車が白馬で当たり前になっていくといい」などなど、電気自動車の魅力を発見したことを語る感想が多いのが印象的でした。

シェアリングの窓口は、レンタカーも扱う地元の信光石油さんが協力してくださいました。「ガソリンスタンドとして電気自動車とどのように関わっているか」という点も興味深かった。電気自動車の優れたポテンシャルを実感することができました」と信光石油の横澤幸一部長。白馬村では、2020 年度も電気自動車への理解を広げるための取り組みを続けていきます。

『親子で楽しむ EV 展示&試乗会』も大盛況。
最新の電気自動車を体験していただきました。

2019 年 9 月 16 日には、COOL CHOICE『親子で楽しむ EV 展示&試乗会』を開催しました。最新の電気自動車やプラグインハイブリッド車の試乗会では、自動車ジャーナリストの津々見友彦さん、片岡英明さん、斎藤聡さん、斎藤慎輔さんがインストラクターとして同乗。また、同じ会場で子供用電気レーシングカートで EV の仕組みを楽しく学べるコーナーも賑わいました。

【試乗車】

日産『リーフ e+』『e-NV200』／三菱『i-MiEV』『アウトランダー PHEV』／BMW『i3』／ジャガー『I-PACE』／フォルクスワーゲン『e-Golf』『Golf GTE』／ホンダ『クラリティ PHEV』

COOL CHOICE って何？

「COOL CHOICE（クールチョイス）」は、2030 年度に温室効果ガス（CO₂）排出量を 2013 年度比で 26%削減することを目指して、省エネ・低炭素型のライフスタイルを実践する「賢い選択」を広げていこうとする取組です。自然エネルギーの電気を使い、電気自動車を上手に活用することも「COOL CHOICE」のひとつ。今回の「白馬 EV シェアリング」や「親子で楽しむ EV 展示&試乗会」なども、環境についての意識を高め、エコカーの活用を促進するための取組です。

ウェブサイトからでも「宣言」できます！

「COOL CHOICE」のウェブサイトでは、個人や企業、団体の賛同登録(COOL CHOICE 宣言)を募集しています。簡単なアンケートに答えるだけ。白馬村のみなさんも、ぜひ宣言してくださいね。

<https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/join.html>

